

7-3

重度化するお客様に対するアクティビティの実践

心を支える生き活きとした生活 忘れていませんか？大切なこと

アクティビティ

生活の質の向上

特別養護老人ホーム 合掌苑 桂寮

発表者：介護師 久保山 俊道	共同研究者：介護師 川名 俊樹
所在地：東京都町田市金森 1075-1	共同研究者：介護師 高橋 祐美
TEL：042-799-2144	E-mail：afukumoto@gsen.or.jp
FAX：042-799-2145	URL：www.gsen.or.jp

今回の発表の施設 またはサービスの 概要	社会福祉法人合掌苑を母体とする特別養護老人ホーム合掌苑桂寮は、平成5年80床の特養とショートステイ8床として開設いたしました。法人のテーマとしているおひとりおひとりの「心を支える」ケアを日々目指しています。
----------------------------	---

＜取り組んだ課題＞

当施設では、積極的に行事の取り組みを行っている。例えば、一泊旅行、日帰り旅行、虫ツアー、イルミネーションツアー、買い物等の外出。施設内で行う定期的な喫茶の他に夜桜喫茶、新茶カフェ、ピアガーデン、芋煮会等季節に応じた行事。さらにフロア内でも、季節を感じて頂けるような設えの工夫を行ってきた。その中で、ある御家族様より「自分で参加の意志がある人や長い時間起きていられる人は、様々な行事を楽しんでいるが、重度の方はどうなのだろうか」という素直なご意見を頂いた。そこで、行事という特別なことではなく、何か日常的なアクティビティの中でその実践が出来ないものか、その取り組みを開始した。数ヶ月経過したが、我々の頭の中には重度の方に楽しんで頂くための新しいアイデアが浮かばなかった。そんな時に、オーストラリアのタスマニアにある高齢者施設での研修に参加した職員があるヒントを得て帰ってきた。目から鱗とは、将にこのことである。

キーワード

アクティビティとは、特別なものではなく、生活の質をあげる為に、日常生活の中で我々がどのように関わるかなによりも大切。どんな機会にもそのチャンスはある。そこで日々のケアの見直しをした結果、ベッド上でのケアを黙々と行ってしまう時があると声があがり、実態把握のための声掛けアンケートを試みた。

＜具体的な取り組み＞

- ① 日頃のケアの見直しをし、全スタッフにアンケートを実施
- ② 声掛けの実践の強化「声掛け実践例」
- ③ 環境の見直し、心地よい空間作りへの試み
- ④ 個別の援助計画の実践

＜活動の成果と評価＞

業務として追われがちな日常生活のなかで、重度の方へ対しての基本的な「声掛け」が出来ていなかったという現状を知ることが出来た。声掛けをしても声こそ出しては頂けないが、瞬ががすかに震え声が伝わっている事が実感できる。アクティビティ＝我々が関わる全ての行為＝生活の質という、アクティビティの本質に気付くことが出来た。声掛けを基本にし、「五感を刺激する」大切さやタッチセラピー、ミュージックセラピーなど「個」の視点にたった工夫が出来る様になった。

＜今後の課題＞

- さらに、重度の方への個別アクティビティの充実
- 重度認知症の方への、アクティビティの実践
- 御家族様も一緒に取り組み

【メモ欄】